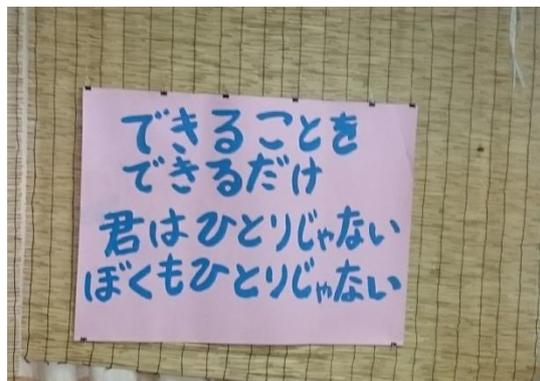


台風19号災害支援のこれからを 考えるための振り返りセミナー



日時：令和2年（2020年）1月18日（土）10：30～15：00
会場：長沼農産物直売所「アグリながぬま」（長野市穂保274-1）



主催：社会福祉法人長野県社会福祉協議会 / 長野県内社協職員連絡協議会

台風 19 号災害支援のこれからを考えるための振り返りセミナー

プログラム

時間	内容
10:30	■開会・事務連絡
10:40	<p>■シンポジウム「台風 19 号災害への取組みの共有」</p> <p>今回の災害によって地域住民の皆さんは、これまでの生活が一瞬にして奪われながらも、暮らしを取り戻すべく復旧作業を続けてきました。この地域を、この人を救いたいと思うボランティア・支援者が集い、協働し合い、多くの力が結集して復旧活動を進めてきました。</p> <p>何を大切にして取り組んできたのか、誰のために取り組んできたのかを共有し、これからの支援の在り方を考えます。</p> <p>《コーディネーター》</p> <p>石井布紀子 さん(NPO法人さくらネット 代表理事)</p> <p>《シンポジスト》</p> <p>前原 土武 さん(災害NGO結 代表)</p> <p>唐木 雅彦 さん(南箕輪村社会福祉協議会)</p> <p>小林こず枝 さん(佐久穂町社会福祉協議会)</p> <p>山崎 博之 (長野県社会福祉協議会)</p> <p>福澤 信輔 (長野県社会福祉協議会)</p>
12:00	～休憩～

時 間	内 容
13:00	<p>■分科会</p> <p>1 災害ボランティアセンター運営支援</p> <p>センター運営には日頃から連携した地域の団体や地域外の応援支援団体が共存する多様な協働により、住民の声に基づいたきめ細やかで重層的なボランティアコーディネートが発揮されてきました。平時の取組みと備えを含めた災害ボランティアセンターについて考えます。</p> <p>《出演者》</p> <p>松岡 伸樹 さん（長野市社会福祉協議会） 武井 未緒 さん（長野市社会福祉協議会） 唐木 雅彦 さん（南箕輪村社会福祉協議会） 小林こず枝 さん（佐久穂町社会福祉協議会） 山崎 博之 （長野県社会福祉協議会）</p> <p>2 NPO・NGO連携(重機・テクニカル)</p> <p>災害支援には多様な形があり、技術を持つボランティア・NPO・NGOとの協働が昨今の災害支援では非常に重要な役割を担っています。技術ボランティアによる支援の視点やノウハウ、コーディネートの軸になることを共有し、さらなる支援の幅を広げるきっかけを探ります。</p> <p>《出演者》</p> <p>前原 土武さん(災害NGO結 代表) 足立 崇 さん(みゆき野青年会議所 前理事長) 西川 遼馬さん(飯山市社会福祉協議会) 小林 周平 （長野県社会福祉協議会）</p> <p>3 農業支援連携</p> <p>宅地だけではない、生業支援という点で、今回の災害でクローズアップされた畑や農地被害に取り組んだ農業ボランティアや農業支援。農業支援によって地域住民の声と何を大事にしてきたのか。今後の災害時を含めた農業支援による連携やその狙いを共有します。</p> <p>《出演者》</p> <p>徳永 慎吾さん(長沼林檎生産組合ぽんど童 組合長) 下川 英紀さん(津野復光隊 代表) 塚田 史郎さん(Team SHIRO 代表) 小林 弘幸 さん(JAながの営農部営農指導課 考査役) 福澤 信輔 （長野県社会福祉協議会）</p>
14:30	■まとめ・振り返り
15:00	■閉会

シンポジウム「台風19号への取組みの共有」

今回の災害によって地域住民の皆さんは、これまでの生活が一瞬にして奪われながらも、暮らしを取り戻すべく復旧作業を続けてきました。この地域を、この人を救いたいと思うボランティア・支援者が集い、協働し合い、多くの力が結集して復旧活動を進めてきました。

何を大切にして取り組んできたのか、誰のために取り組んできたのかを共有し、これからの支援の在り方を考えます。

出演者



NPO法人さくらネット
代表理事 石井布紀子さん
(コーディネーター)



災害NGO結
代表 前原土武さん



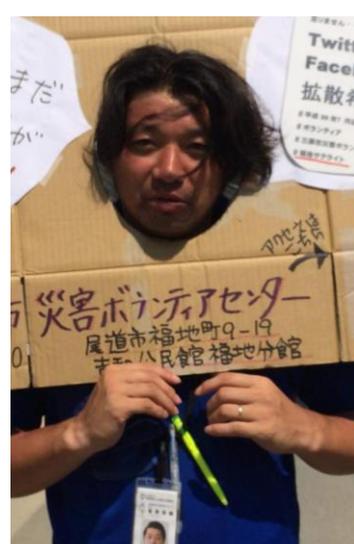
南箕輪村社会福祉協議会
唐木雅彦さん



佐久穂町社会福祉協議会
小林こず枝さん



長野県社会福祉協議会
山崎博之



長野県社会福祉協議会
福澤信輔

MEMO



A series of 20 horizontal dotted lines providing a template for writing a memo.

“ONE NAGANO”で復興へ

～台風第19号災害における支援状況～



6万人を超えるボランティアが NAGANOに



台風第19号災害により
被災された皆様に
心からお見舞いを申し上げます。

10月の発災以来、県内11の市町村で地元社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターを設置し、現在までに6万人を超えるボランティアが被災地を支援してきました。

長野県社会福祉協議会では、これらのセンター運営の支援や、災福ネット（長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会）による避難所支援、そして被災者を継続的に見守りつづける「地域ささえあいセンター」の体制整備などに全力で取り組んで参りました。

この間の支援状況について報告します。

【写真提供：災害NGO結】

災害ボランティアセンター （災害VC）の運営支援

災害VCは被災者のニーズと、ボランティアの力をマッチングする、災害ボランティア活動の拠点です。

県内外から6万人を超えるボランティアが駆けつけ、家屋の泥だしや家財の片づけを中心に、被災者に寄り添った支援活動に活躍しています。

県内の社会福祉協議会は、災害VCの運営に備え、訓練やDSAT（県内社協災害初動時先遣チーム）の養成に取り組んできました。

甚大な被害の中でも、これらの備えを活かして、素早い受援体制を整えることができたと考えています。

支援のための 多機関連携と協働

各市町村災害VCの運営支援のため、社会福祉協議会のネットワークを始めとして、支援P（災害ボランティア支援プロジェクト会議）、災害NPO、企業、学校等様々な機関・団体と連携・協働を行っています。

現地での人的支援から、物資の提供、情報発信支援、運営に対するスーパーバイズなどそれぞれの得意分野を活かし



軽トラボランティアが大活躍



水につかった家財の清掃に女性や高齢者も活躍



泥出しを行う学生ボランティア

た支援に心から感謝いたします。

また、応援側のNPOなどの調整を行う長野県災害時支援ネットワークとも密な連携を図っています。

台風第19号災害 長野県内のボランティア活動者数

◆災害ボランティアセンターの開設期間、開設期間中のボランティア活動者数(県社協まとめ、11月30日時点) ◆人的被害、住宅被害総数(長野県災害対策本部資料から、11月29日時点)

ボランティア
総人数
61,812人

住宅被害総数
8,551世帯

死者
5人

中野市
735人
 災害VC
 10月14日～10月30日

床上浸水 **78** 床下浸水 **45**

飯山市
1,253人
 災害VC
 10月14日～10月27日

床上浸水 **209** 床下浸水 **421**

栄村
16人
 災害VC
 10月14日～10月15日

床上浸水 **2** 床下浸水 **2**

須坂市
2,084人
 災害VC
 10月15日～11月4日

床上浸水 **247** 床下浸水 **102**

小布施町
641人
 災害VC
 10月16日～10月28日

床上浸水 **35** 床下浸水 **23**

長野市
53,528人
 災害VC
 10月14日～活動継続中

床上浸水 **2,289** 床下浸水 **1,573**

千曲市
1,193人
 災害VC
 10月15日～11月8日

床上浸水 **433** 床下浸水 **1,202**

上田市
295人
 災害VC
 10月14日～10月31日

床上浸水 **25** 床下浸水 **96**

立科町
79人
 災害VC
 10月13日～10月23日

床上浸水 **3** 床下浸水 **29**

佐久市
1,264人
 災害VC
 10月14日～11月8日

床上浸水 **154** 床下浸水 **858**

南佐久郡・佐久穂町
724人
 災害VC
 10月15日～11月10日

床上浸水 **62** 床下浸水 **93**



11月中旬には、農地の再生を目指して、農協を主体とした「農ポラプロジェクト」がスタート。農ポラや農福連携による地域の復興にも取り組んでいます。また、被災者を継続して見守っていく「地域ささえあいセンター」は、長野市などの被災市町村で設置を準備しています。本会でも、「長野県生活支援・地域ささえあいセンター」を長野県から受託し、引き続き生活復興の支援に取り組み予定です。

今回の支援活動から生まれた「ONE NAGANO」は、私たちの目指す地域共生社会の実現にも通じるスローガンです。これからも息の長い支援活動をみんなで続けていきたいと思います。

「ONE NAGANO」の息の長い支援を

また被災のため休業している福祉事業所のメンバーを活かした地域貢献活動の支援など新たな取り組みも応援しています。

今年2月に発足した災福ネットは、長野市の要請を受けて、避難所に「長野県ふくしチーム」を派遣するなど、福祉専門職による被災者支援に取り組みました。

「災福ネット(長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会)の活動

長野県社協災害福祉支援本部活動状況

長野県社会福祉協議会では、10月13日、長野県社協災害福祉支援本部を上げ、長野県や関係団体と協働しながら、次の4項目を重点に、災害福祉支援活動を実施してきました。

- 1 市町村災害ボランティアセンター（災害VC）の支援
- 2 災害福祉広域支援ネットワーク協議会活動の運営
- 3 生活復興支援、地域ささえあいセンターの体制づくり
- 4 NPO、企業等との災害支援ネットワーク活動

1 被災地の災害VCの運営を全力で支えています。（災害VC運営支援者の派遣）

- DSAT（県内社協災害初動時先遣チーム）の派遣 のべ110人
- 県内市町村社協職員の応援派遣 のべ1,443人
- 県社協職員の派遣 のべ535人
- 関東ブロック社協職員の応援派遣 のべ329人
- 北陸ブロック社協職員の応援派遣 のべ168人
- 全社協・災害支援プロジェクト会議 のべ72人
(11月30日現在)

2 災福ネットを基盤として、長野県ふくしチームによる避難所支援や被災事業所の支援に取り組みました。

- 長野県ふくしチームによる避難所支援
 - ・のべ派遣人数 422人（59日間）
- 被災社会福祉法人への支援
 - ・社会福祉法人賛育会ほか
- 農福片付けプロジェクト
 - ・長野市長沼地区の災害ごみ運搬業務を就労支援事業所で受託、取り組み中。



長野市内の避難所で活動する、長野県・群馬県のふくしチーム(DWAT)



長野市長沼地区のリンゴ畑で活動する農福片付け隊

3 生活復興支援／地域ささえあいセンターの体制づくりを推進、12月から活動が始まります。

住宅再建や地域の復興に向けた長い道のりを見据えて、被災者の見守りや相談支援体制の構築に向けて、「地域ささえあいセンター」体制構築会議を開催するなど、被災市町村の相談支援体制づくりを支援しています。



「地域ささえあいセンター」体制構築会議（11月14日、長野市内）

4 NPO・企業とのネットワークを活かして、農ボラプロジェクトなど復興のまちづくりを応援しています。

- NPOセンター、農協、生協を主体とした農ボラプロジェクト（信州農業再生復興ボランティアプロジェクト）の立上げ・運営支援。
- 被災した地域公民館や集会所の仮復旧を支援し、在宅避難者のための情報発信やサロン活動を応援しています。



リンゴの木を救うため、周囲1メートルの土砂を撤去



「まちの縁側 めくめく亭」長野市豊野地区

災害ボランティアセンターから個別支援へ

<南佐久郡・佐久穂町災害ボランティアセンターの経過>

- センター開設日数 23日間 (10/15～11/10)
- ボランティア登録人数 384名
- ボランティア活動員数 688名
- ボランティアを派遣した被災世帯 43件

佐久穂町社会福祉協議会 小林こず枝

スタッフが自信をもって
ボランティアセンター運営に関わるには？

- 朝・夕のミーティングを実施
～分からないことや不安を翌日の支援に持ち越さない。
課題を引きすぎないために～

【メンバー】

行政 (福祉課・総合政策課・町村会事務局長 (ほか))
ボランティア代表者 (民生委員)
ブロック派遣の他市町村社協/県社協のみなさん
佐久穂町社協 地域福祉課スタッフ
近くの病院のMSWのみなさん
佐久穂町社協 法人/ケママネ/デザイナーサービスのスタッフ

スタッフが自信をもって
ボランティアセンター運営に関わるには？

【課題】

- ・天候によるボランティア活動の判断基準は？いつ、誰が？判断するか。
- ・災害ゴミの対応策 (行政との連絡調整) ⇒ ゴミ集積場の変更
⇒ 災害ゴミや泥・流木の運搬車両
- ・ボランティアがどこまでやる？ (活動範囲)
- ・被災家屋へのボランティア派遣の優先順位は？
- ・ボランティアセンターの運営方針と、住民/行政のイメージのギャップ

夕のミーティングで課題を出し合い、持ち帰って検討。
翌朝にみんな確認してから、それぞれの現場へ。



気づけばそれがルーティンワークになっていた！

災害ボランティアセンターと段階的な変化

- ①立ち上げ期 **【第1段階】** (発災直後～10月半ばの10日間)
⇒ 現地調査にてニーズの把握
とにかく家屋の片づけが中心
- ②生活復旧期 **【第2段階】** (10月半ば～下旬までの10日間)
⇒ 片づけが進んだことの小さな安心感
「○○さんの表情が少し明るくなったよなね。」
生活圏以外のニーズが出てくる
- ③生活支援期 **【第3段階】** (11月上旬～センターを閉じるまで)
⇒ 個別に支援が必要な人が残ってくる。

ボランティアセンター運営によって得られた成果と課題

【成果】

- ①多職種連携が深まり、今後の繋がりに発展した。
- ②生活課題を抱える人への早期介入ができた。
 - ・89才 独居の女性 被災したショックから精神的不安定に。
「大切な物を捨てないで！家を壊さないで！」 ➡ 包括と連携
 - ・50代 独居の男性 無職 地域や親族とのつながりはない。
「どこから片付けてもらうか。どこまでやってもらうか。」 ➡ 民生委員と連携
(自分ひとりで決められない！)

【課題】

- ・ここで繋がってきたニーズを、日常的な地域づくりにどのように落とし込んでいくか？
- ・災害ボランティアセンターの運営や在り方は、まさに、本来の社協がやるべきコミュニケーションソーシャルワークの縮図だった。

災害ボランティアセンターから今後の展開へ

○ボランティアが介入した43件の被災世帯には、その後も定期的に訪問継続している。

○「佐久穂町生活支援・ささえあいセンター」開設
(被災者・見守り相談支援等事業を受託)

①開所式 1月17日 (金)

②構成メンバー

生活支援相談員 2名

地域おこし協力隊 2名

行政(福祉係)

民生委員(ボランティア代表)

社協 地域福祉課スタッフ

・それぞれのポジションで
・それぞれの役割を發揮して
・プロジェクトチームで
包括的な取り組みを目指します！

出演者

分科会1 「災害ボランティアセンター運営支援」

センター運営には日頃から連携した地域の団体や地域外の応援支援団体が共存する多様な協働により、住民の声に基づいたきめ細やかで重層的なボランティアコーディネートが発揮されてきました。

平時の取組みと備えを含めた災害ボランティアセンターについて考えます。

〔進行〕 山崎博之
(長野県社会福祉協議会)



佐久穂町社会福祉協議会
小林こず枝さん



南箕輪村社会福祉協議会
唐木雅彦さん



長野市社会福祉協議会
松岡伸樹さん



長野市社会福祉協議会
武井未緒さん

MEMO



A series of 20 horizontal dotted lines spaced evenly down the page, providing a template for writing.

出演者



飯山市社会福祉協議会
西川遼馬さん



みゆき野青年会議所
理事長 足立崇さん



長野県社会福祉協議会
小林周平

分科会2 「NPO・NGO 連携」

災害支援には多様な形があり、技術を持つボランティア・NPO・NGOとの協働が昨今の災害支援では非常に重要な役割を担っています。技術ボランティアによる支援の視点やノウハウ、コーディネートの中核になることを共有し、多様な主体との連携によってさらなる支援の幅を広げるきっかけを探ります。

〔進行〕 前原土武さん
(災害 NGO 結 代表)



災害 NGO 結
代表 前原土武さん

MEMO



A series of 20 horizontal dotted lines providing a template for writing a memo.

出演者



長沼林檎生産組合ぽんど童
組合長 徳永慎吾さん



ぽんど童HP



津野復光隊
代表 下川英紀さん



津野復光隊
Facebook



TEAM SHIRO
代表 塚田史郎さん



TEAM SHIRO
Facebook



JA ながの営農部営農指導課
考査役 小林弘幸さん

分科会3 「農業支援連携」

宅地だけではない、生業支援という点で、今回の災害でクローズアップされた畑や農地被害に取り組んだ農業ボランティアや農業支援。

農業支援によって地域住民の声と何を大事にしてきたのか。

今後の災害時を含めた農業支援による連携やその狙いを共有します。

〔進行〕 福澤信輔
(長野県社会福祉協議会)

MEMO



A series of 20 horizontal dotted lines for writing.

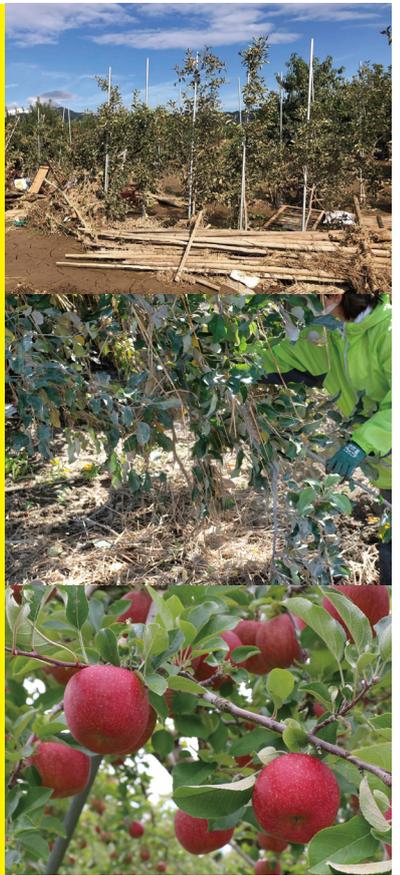


信州・農業 再生復興

信州の農家 を 救おう!!

ボランティアプロジェクト

nouvolu project



長野市りんご ボランティアプロジェクト

🍏 🍏 🍏 🍏 🍏 🍏 (長沼・豊野地区) 🍏 🍏 🍏 🍏 🍏

畑での、ボランティアを募集しています!

11月18日(月)より、毎日活動しています!

長野県PRキャラクター「アルクマ」©長野県アルクマ
「ボランティアプロジェクト応援キャラクター」アルクマ



被災から1ヶ月、農地には大量の泥や災害漂着物があり、復旧の手が追いついていない状況です。
今、一人ひとりの力を必要としています。雪が降る前に、みんなの力で長野の農地を復活させたい!
皆様からのご協力をお願いいたします。



作業内容

りんご畑、もも畑、田んぼに流れついた災害漂着物の撤去
果樹の根回りの泥出しなどの作業をお願いしています。

個人の方は事前申込み不要!
8名以上の団体は事前申込みをお願い致します。

現地へのアクセス受付は、
ウラ面にて!



【詳細・お問い合わせ】

信州農業再生復興ボランティアプロジェクト実行委員会

電話 080-8497-5942

ホームページはこちら▶



【現地へのアクセスについて】

いずれかの駐車場をお使いください。

【駐車場①】 **みるまーま (一部)** 住所:長野市大字穂保724-1

●50台程度駐車可能(無料)●駐車場オープン8:30頃
こちらからマイクロバスにて〈あぐりながぬま【受付】〉まで移動します

【駐車場②】 **しんきんグラウンド駐車場**

住所:長野市大字村山547-7 ●100台駐車可能(無料)●駐車場オープン8:30頃
こちらからマイクロバスにて〈あぐりながぬま【受付】〉まで移動します

※変更になる場合がありますので**農ボラHP**で**最新情報**を事前にご確認ください。



【ボランティア参加に際してご注意いただきたいこと】

拡大図はコチラ

注意事項<1> 「ボランティア活動保険」の加入が必要です

未加入の場合はお住いの市町村にある社会福祉協議会、または全国社会福祉協議会のHPから事前にご加入をお願いします。(農ボラは、各市町村社会福祉協議会が募っている災害ボランティアとは別の仕組みです。社会福祉協議会では農ボラに関する問い合わせを受付けていません)

注意事項<2> ボランティア活動の装備について

ご準備ください

- ・動きやすい服装 (長袖・長ズボン)
- ・厚手の手袋 ・タオル
- ・長靴 (出来れば踏み抜き防止中敷きを入れた長靴)
- ・防塵マスク ・帽子 ・ゴーグル
- ・スコップ (お持ちの方)

スコップなど紛失防止のためお名前をご記入下さい



注意事項<3> 食事や飲料について 食事と飲料はご自身でご用意ください。特に十分な飲料をご用意ください。

※ さらに詳しい内容や一日の流れなど、**農ボラHP**にて掲載しておりますので事前にご確認ください。

【団体 (8名以上) 事前申し込みについて】

ステップ<1> 申し込みフォームにご記入下さい

事前申し込み用の入力フォームにて、必要事項を入力してください。

ステップ<2> ファイルのダウンロード

農ボラHPにて参加者名簿を記入するExcelファイルをダウンロードし、参加メンバーをご記入ください。

ステップ<3> こちらから連絡をお待ちください

活動日程を調整させていただき、活動場所・駐車場に関しては、2日前までにFAX or メールにて連絡いたします。

ステップ<4> 活動日が決まったら

活動日まで、<2> で記入した「参加者名簿ファイル」を専用ページからアップロードしてください。



長野県PRキャラクター「アルクマ」©長野県アルクマ
「ボランティアプロジェクト応援キャラクター」アルクマ

長野に雪が降る前に ころをひとつに がんばろう信州

農ボラ
HP



2019年12月11日

信州農業再生復興ボランティアプロジェクト (第一期) の今後の活動についてのご案内

台風19号で甚大な被害を受けた長野市長沼地区、豊野地区の農家の皆様は、農地に流れ着いた大量の泥や災害漂流物が、発災1ヶ月を過ぎても撤去が進んでいない状況を憂っていました。

その声を受け、信州農業再生復興ボランティアプロジェクト（以下、「プロジェクト」）では、ボランティア・NPOの力をお借りして、行政の災害復旧事業が本格的に実施される前の緊急的な対応として、同地区の「災害漂流物の片付け」「果樹の根回りの泥だし」をプロジェクトの使命に、りんご農家の皆さん・農協・ボランティア・NPOなどが連携し、11月14日のトライアル開始以降、第一期の活動を進めてきました。

このプロジェクトでは、延べ5,656人(12月11日時点)のボランティアの皆さんにご参加いただき、甚大な被害を受けたりんご農家の方々からのご相談に対応してきました。

この間、農地にまとめた災害漂流物の一時集積場が決まり、12月4日より軽トラックボランティアによる漂流物の回収・搬出もプロジェクトで進めてきました。

また、地元農家・行政・建設業者等が連携して、行政の災害復旧事業による農地の土砂撤去がスタートし、本格的に農地の排土作業が開始しています。

同地区の「災害漂流物の片付け」「果樹の根回りの泥だし」という、当初の活動のニーズも現在に至るまでに概ね解消され、農地の復旧・復興の道筋が、プロジェクトを進めてきたこの1ヶ月で大きく変わり始めています。

以上のことから、プロジェクト活動当初の使命に対する活動状況と農地排土に向けた行政の動きと併せて、厳冬期に向かう現地の気温低下や降雪などボランティア活動に対する厳しさも増していることから、プロジェクト第一期を終了させる判断をしました。

プロジェクト第二期の活動につきましては、改めてホームページ・Facebookなどを通じてご案内をいたします。

これまでプロジェクトにご参加いただきました県内外のボランティアの皆様、運営にご協力頂きました皆様へ多大なる御礼を申し上げますとともに、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【農ボラプロジェクト（第一期）の今後の活動及び受付について】

- 12月14日(土)まではこれまでと同様に、一般ボランティアと軽トラックボランティアの受付を行います。なお、12月14日(土)をもって〈一般ボランティア受付〉は終了とさせていただきます。

〈一般ボランティア受付〉 : JAアグリながぬま店

〈軽トラックボランティア受付〉 : ユーパレット赤沼店駐車場

※いずれも受付時間は午前9時から10時30分迄になります。

- 12月15日(日)は長沼地区の行事開催に伴い、全てのボランティア受付を休止します。

- 12月16日(月)～12月20日(金)の活動については、軽トラックでの漂流物回収のボランティア活動に限定いたします。朝9時～10時半までJAアグリながぬまにて受付をさせていただきます。

◆ボランティア活動内容・期間・受付場所

ボランティア活動	活動期間	受付場所
一般ボランティア	12/14(土)まで	JAアグリながぬま
軽トラックボランティア	12/20(金)まで	12/14迄 ユーパレット赤沼店 12/16～20 JAアグリながぬま

◆住所

・JAアグリながぬま : 〒381-0003 長野県長野市大字穂保274-1

・ユーパレット赤沼店 : 〒381-0001 長野県長野市大字赤沼2399-1 ユーパレットショッピングモール内

◆ボランティア参加、運営に関するお問い合わせ

080-8497-5942 (受付時間 : 9時～18時)

信州農業再生復興ボランティアプロジェクト実行委員会

台風 19 号災害支援のこれからを考えるための振り返りセミナー 開催要項

1 目 的

台風 19 号による災害支援においては、発災直後から被災住民の暮らしを取り戻すべく、ボランティア・NPO・NGO、災害支援関係団体、社会福祉協議会などが協働しながら長野県内で延べ7万人を超えるボランティアによる活動をコーディネートし、家屋の復旧のほかにも多様できめ細やかな支援を進めてまいりました。

特に被害が甚大となった長野市はもちろん、千曲川沿線の被災地域では、厳冬期を迎える住民の生活支援、地域の再生、生業支援などまだまだ発災前の生活を取り戻すには多くの時間と知恵が必要です。

このセミナーは、これまで取り組んだ災害支援の現状と、被災地でこれから必要とされること、「誰を」「何を」大切にして被災地の応援を考えるのか、今後起こりうる災害に備えて必要なスキル・ノウハウを共有する機会として開催します。

- 2 主 催 社会福祉法人長野県社会福祉協議会 長野県内社協職員連絡協議会
- 3 日 時 令和2年(2020年)1月18日(土) 10:30-15:00
- 4 会場予定 長沼農産物直売所「アグリながぬま」(長野市穂保 274-1)
※会場変更の場合、別途ご案内いたします。
- 5 対象者 市町村社会福祉協議会職員、ボランティア、NPO・NGO、災害支援関係団体、災害支援に関心のある方
- 6 参加費 無料
- 7 内 容 別紙プログラムをご確認ください。
- 8 申込方法 別添「参加申込書」に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにより
本会へ1月15日(水)までにお申し込みください。
- 9 その他 本セミナーに係る個人情報は、本会の「個人情報の保護に関する方針」に基づき
適切に取扱い、他の目的で使用することはありません。

プログラム

時間	内容
10:30	■開会・事務連絡（受付 10:00～）
10:40	<p>■シンポジウム 「台風19号災害への取組みの共有」</p> <p>今回の災害によって地域住民の皆さんは、これまでの生活が一瞬にして奪われながらも、暮らしを取り戻すべく復旧作業を続けてきました。この地域を、この人を救いたいと思うボランティア・支援者が集い、協働し合い、多くの力が結集して復旧活動を進めてきました。</p> <p>何を大切にして取り組んできたのか、誰のために取り組んできたのかを共有し、これからの支援の在り方を考えます。</p> <p>《コーディネーター》 石井布紀子 氏(NPO法人さくらネット 代表)</p> <p>《シンポジスト》 前原 土武 氏(災害NGO結 代表)</p> <p>長野県社会福祉協議会</p> <p>※その他シンポジスト調整中</p>
12:00	～休憩～
13:00	<p>■分科会</p> <p>以下3テーマに分かれてこれからの災害支援のノウハウを共有します。</p> <p>※申込書に希望する分科会テーマを記載してください。</p> <p>《1》 災害ボランティアセンター運営支援</p> <p>センター運営には日頃から連携した地域の団体や地域外の応援支援団体が共存する多様な協働により、住民の声に基づいたきめ細やかで重層的なボランティアコーディネートが発揮されてきました。平時の取り組みと備えを含めた災害ボランティアセンターについて考えます。</p> <p>《2》 NPO・NGO連携（重機・テクニカル）</p> <p>災害支援には多様な形があり、技術を持つボランティア・NPO・NGOとの協働が昨今の災害支援では非常に重要な役割を担っています。技術ボランティアによる支援の視点やノウハウ、コーディネートの軸になることを共有し、さらなる支援の幅を広げるきっかけを探ります。</p> <p>《3》 農業支援連携</p> <p>宅地だけではない、生業支援という点で、今回の災害でクローズアップされた畑や農地被害に取り組んだ農業ボランティアや農業支援。農業支援によって地域住民の声と何を大事にしてきたのか。今後の災害時を含めた農業支援による連携やその狙いを共有します。</p>
14:30	■まとめ・振り返り
15:00	■閉会

※内容は変更する場合があります。ご了承ください。